

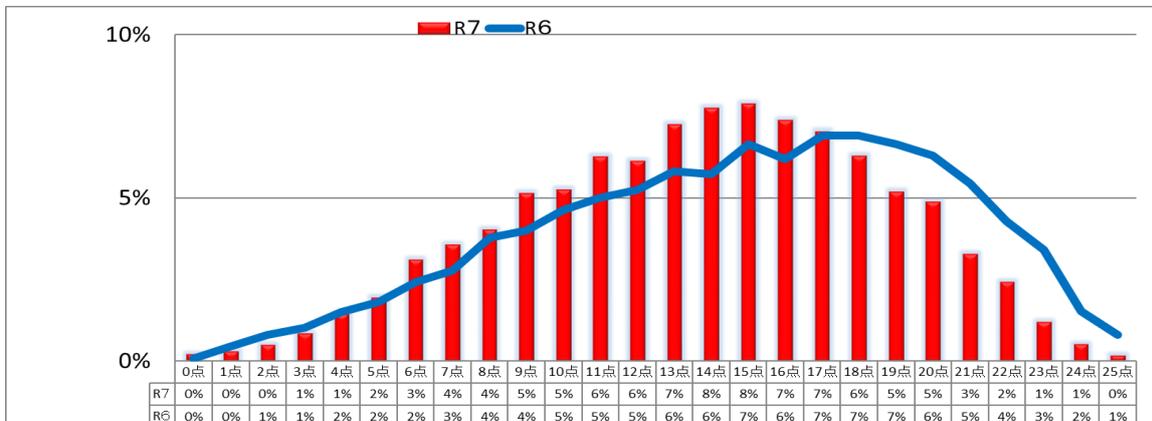
令和7年度
岩手県中学校新入生学習状況調査

授業改善の手引
【国語】

授業改善の手引 国語

1 調査結果

(1) 分布状況



○ 問題数は昨年度と同様の25問、正答数の最頻値は15問、平均正答数は13問です。平均正答率は54.8%、正答数の最頻値より高い正答の割合は37%、低い正答の割合は52%です。

(正答数の最頻値：該当する生徒数の最も多い正答数)

(2) 領域等の正答率

領域等	正答率 ()はR6新入生学調
[知識及び技能] (7問)	71% (69%)
[思考力, 判断力, 表現力等]「A話すこと・聞くこと」(4問)	57% (58%)
[思考力, 判断力, 表現力等]「B書くこと」(6問)	49% (57%)
[思考力, 判断力, 表現力等]「C読むこと」(8問)	44% (53%)

(3) 結果概要

- 小問ごとの正答率において、「2(1) 文の構成について理解する(主語・述語)」問題が81%、「2(5) 日常使われる敬語を正しく使う」問題が77%で、比較的正答率の高い結果となりました。
- 領域等においては、[知識及び技能]が71%(+2)と昨年度を上回りました。
- [思考力, 判断力, 表現力等]「A話すこと・聞くこと」が57%(−1ポイント)、「B書くこと」が49%(−8ポイント)、「C読むこと」が44%(−9ポイント)と、昨年度を下回りました。
- 経年比較問題となっている「3(3) 描写を基に、登場人物の心情を捉える」問題が38%(+5ポイント)と昨年度を上回ったことは、登場人物の心情について、登場人物相互の関係に基づいた表現の仕方等に注目して読むことの指導の成果と考えられます。
- 経年比較問題となっている小問ごとの正答率においては、「4(4) 文章の構成を捉えて読む」問題が44%(−6ポイント)、「5 根拠に基づいて自分の考えを書く」問題が54%(−11ポイント)と昨年度を下回り、指導の工夫が必要な状況にあります。
- 経年比較問題の、「5 資料から読み取ったことをまとめて書く」問題が21%(−12ポイント)と昨年度を下回り、課題が継続しています。

小問正答

問題番号		調査問題のねらい	学習指導要領との関連	主な観点	備考	正答率	選択 No.						(%)			
大問	中問						小問	通番号	1	2	3	4	5	6	9	0
									選択	選択	選択	選択	誤答	正答		無解答
1	(1)	1	話の進め方や質問の仕方の工夫を理解する。	5・6年思判表A(1)工	話聞	66.4	10	66	14	8	0	0	0			
	(2)	2	話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く。	5・6年思判表A(1)工	話聞	73.6	14	74	3	10	0	0	0			
	(3)	3	話の要点や内容を正しくおさえる。	5・6年思判表A(1)工	話聞	37.6	38	10	38	14	0	0	1			
	(4)	4	話の要点や内容を正しくおさえる。	5・6年思判表A(1)工	話聞	51.7	0	0	0	0	41	52	8			
2	(1)	5	文の構成について理解する。(主語・述語)	3・4年知技(1)カ	言葉	80.7	0	0	0	0	19	81	1			
	(2)	6	熟語の構成を意味との関わりから理解する。	5・6年知技(1)オ	言葉	73.3	7	73	10	8	1	0	1			
	(3)	7	文脈に沿って、漢字を適切に使う。	5・6年知技(1)エ	言葉	44.6	0	0	0	0	25	45	30			
	(4)	8	文章全体の構成や書き表し方に着目して、文章を整える。	5・6年思判表B(1)オ	書	39.1	0	0	0	0	49	39	12			
	(5)	9	日常使われる敬語を正しく使う。	5・6年知技(1)キ	言葉	76.6	0	0	0	0	18	77	5			
	(6)	10	「探して」を正しく書く。	5・6年知技(1)エ	言葉	74.8	0	0	0	0	17	75	8			
	(7)	11	「積極」を正しく書く。	5・6年知技(1)エ	言葉	54.2	0	0	0	0	30	54	15			
	(8)	12	「負担」を正しく読む。	5・6年知技(1)エ	言葉	94.7	0	0	0	0	3	95	2			
	(9)	13	目的や意図に応じた書き方の工夫を捉える。	5・6年思判表B(1)ウ	書	62.8	4	7	24	63	0	0	1			
	(10)	14	文章全体の構成や書き表し方に着目して、文章を整える。	5・6年思判表B(1)オ	書	78.9	79	4	11	5	0	0	1			
3	(1)	15	描写を基に、登場人物の心情を捉える。	5・6年思判表C(1)イ	読	76.3	5	7	76	9	0	0	1			
	(2)	16	描写を基に、登場人物の心情を捉える。	5・6年思判表C(1)イ	読 経年	24.4	0	0	0	0	58	24	18			
	(3)	17	描写を基に、登場人物の心情を捉える。	5・6年思判表C(1)イ	読 経年	37.8	0	0	0	0	41	38	21			
	(4)	18	表現の仕方を捉えて読む。	5・6年思判表C(1)エ	読	31.3	30	42	9	31	1	0	4			
4	(1)	19	目的を意識して、中心となる語を見付けて要約する。	3・4年思判表C(1)ウ	読	44.3	0	0	0	0	39	44	17			
	(2)	20	目的に応じて、必要な情報を捉えて読む。	5・6年思判表C(1)ウ	読	68.7	5	69	69	5	1	0	5			
	(3)	21	文章の要旨を捉えて読む。	5・6年思判表C(1)ア	読 経年	25.0	0	0	0	0	40	25	35			
	(4)	22	文章の構成を捉えて読む。	5・6年思判表C(1)ア	読 経年	44.2	13	20	44	11	0	0	12			
5	(1)	23	根拠に基づいて自分の考えを書く。	5・6年思判表B(1)ウ	書 経年	53.6	0	0	0	0	17	54	30			
	(2)	24	資料から読み取ったことをまとめて書く。	5・6年思判表B(1)ウ	書 経年	20.8	0	0	0	0	45	21	34			
	(3)	25	段落構成を考えながら指定された長さの文章を書く。	5・6年思判表B(1)イ	書	36.4	0	0	0	0	32	36	32			
全体正答率						54.8										

2 指導のポイント

- (1) 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を正しく捉えて聞いたり、自分の聞く様子を振り返ったりする学習を大切にしましょう。

ア 問題の概要

1 (3) 話の要点や内容を正しくおさえる。

第5・6学年〔思考力、判断力、表現力等〕A「話すこと・聞くこと」(1)エ 正答率 37.6%

イ 誤答分析

全体の約6割が誤答でした。誤答を分析すると、【インタビュー準備メモ】の内容をふまえずに解答している場合が多く見られました。事前に準備していたメモを基にインタビューを進め、林さんの話の内容を捉えながら、「必要に応じて質問したいこと」を聞いていることに着目できていないことが誤答の要因と考えられます。

この問題では、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと自分の考えを比較しながら聞く力が求められます。特に、メモを基にインタビューするだけでなく、自分の目的や相手の反応に応じて聞き方を変えたり、必要に応じてさらに質問したりする力が必要になります。

ウ 指導上の留意点

(ア) 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることについては、小学校第5学年及び第6学年（「A 話すこと・聞くこと」の指導事項エ）で学習しています。このことは、中学校第1学年（「A 話すこと・聞くこと」の指導事項エ）の、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめる学習につながります。

(イ) 指導に当たっては、目的を明確にして聞くことに加え、「必ず質問する内容」「必要に応じて質問する内容」のように聞く内容に軽重をつけたり、インタビューの様子を録画するなどしながら、話の要点や内容を正しくとらえることができているかを振り返ったりすることが大切です。

- (2) 文章全体の構成や書き表し方に着目して、文章を整える学習活動が行われるように、学習の調整が必要となる場面を計画的に設定しましょう。

ア 問題の概要

2 (4) 文章全体の構成や書き表し方に着目して、文章を整える。

第5・6学年〔思考力、判断力、表現力等〕「B書くこと」(1)オ 正答率 39.1%

イ 誤答分析

全体の5割が誤答、1割が無解答でした。誤答を分析すると、「よごれがふくまれず、見た目がきれいなため」といった解答が多く見られました。これは、上質紙の利点には着目しているものの、原料には着目できていないことが原因だと考えられます。

この問題では、文章全体の構成や書き表し方に着目して、文章を整える力が求められます。〈再生紙と上質紙〉において書こうとしているのは、紙の種類とそれぞれの原料、特徴及び使用することの利点についてです。その中で、[]で囲まれた部分は、再生紙の見た目上の特徴とその理由について、また、再生紙を使うことの利点について書かれています。よって、「一方」という接続語から始まる次の段落も、同様の内容が含まれるように整える必要があります。ここでは、再生紙より白いという利点にのみ着目した解答が多くみられたことから、文章全体を見たときに、内容や表現に一貫性があるか、目的や意図に照らして適切な構成や記述になっているかを考える力に課題があると考えられます。

ウ 指導上の留意点

(ア) 文章全体の構成や書き表し方に着目して、文章を整えることについては、小学校第5学年及び第6学年（「C 書くこと」の指導事項オ）で学習しています。このことは、中学校第1学年（「C 書くこと」の指導事項エ）の、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える学習につながります。

(イ) 指導に当たっては、文章全体の構成や書き表し方に着目して推敲することが大切です。例えば、段落同士の関係を見ながら文章の構成を整える、見出しと内容の整合性を確かめるなどの視点で書いた文章を自分で見直す、友達と交流するなど、学習の調整が必要となる学習活動を計画的に設定することが考えられます。

- (3) 文章の構成を捉えるために、読む目的を明確にし、叙述をもとに、事実と感想・意見などとの関係を押さえる学習活動を位置付けた単元デザインにしましょう。

ア 問題の概要

4 (4) 文章の構成を捉えて読む。

第5・6学年〔思考力、判断力、表現力等〕「C読むこと」(1)ア 正答率44.2%

イ 誤答分析

全体の約4割が誤答、無解答が約1割でした。誤答を分析すると、2段落の1文目に「共有しているだろうか」という叙述があることから、これを「疑問」もしくは「筆者の考え」と捉え解答しているものと考えられます。これは、2段落と3段落の関係を吟味せずに、「『だろうか』=疑問(筆者の考え)」という思考を働かせたことが要因であると考えられます。また、「言葉を使わない意思疎通」が1～3段落の「対照的な話題」であること、7～9段落が4段落の具体例であることが捉えられていないことから、中心となる事柄が捉えられていないことも考えられます。

この問題では、文章の各部分だけを取り上げるのではなく、全体を通じてどのように構成されているのかを正確に捉える力が求められます。

ウ 指導上の留意点

(ア) 事実と感想、意見などとの関係を、叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することについては、小学校第5学年及び第6学年(「C読むこと」の指導事項ア)で学習しています。このことは、中学校第1学年(「C読むこと」の指導事項ア)の、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握する学習につながります。

(イ) 指導に当たっては、文章の各部分だけではなく、文章全体の構成を正確に捉えることが大切です。それは要旨を把握する力につながります。〔知識及び技能〕の(1)カ「話や文章の構成や展開」とも関連付けながら、書き手がどのような事柄を理由や事例としてあげているのか、どのような感想や意見をもっているのかなどを、叙述を基に説明したり、複数の文章を比較し、論の進め方について共通点や相違点を交流しながら、説得力のある説明について検討したりする学習活動が考えられます。

- (4) 複数の情報を比較し関連付けながら、自分の考えの根拠となる事柄を捉え、根拠を明確にして書く学習を大切にしましょう。

ア 問題の概要

5 条件② 資料から読み取ったことをまとめて書く。

第5・6学年〔思考力、判断力、表現力等〕「B書くこと」(1)ウ 正答率20.8%

イ 誤答分析

この問題では、複数の資料から「自分の考え」の根拠となる事柄を抽出し、読み手が「自分の考え」を理解しやすいようにまとめる力が求められます。「メディアの接し方」という日常的な話題ではありますが、条件②の考えを支える理由や根拠の記述は、全体の45%が誤答、34%が無解答という結果でした。誤答の多くは、資料から読み取ったことではなく自分の知識や体験を基にして理由を挙げているものや、二つの資料を関連付けず、それぞれの資料の事柄を根拠として挙げていました。特に、文章と図表という種類の異なる資料から読み取った情報を基に、「自分の考え」を根拠を明確にして伝えるために、それらの情報から読み取れることを比較し関連付けながら考えを形成することに課題があると考えられます。

ウ 指導上の留意点

(ア) 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたり、事実と感想、意見などを区別して書いたりなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することについては、小学校第5学年及び第6学年(「B書くこと」の指導事項ウ)で学習しています。このことは、中学校第1学年(「B書くこと」の指導事項ウ)の、根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することの学習につながります。

(イ) 指導に当たっては、事実を客観的に書くとともに、その事実と感想や意見との関係を十分に捉えて書くことが重要です。また、客観性をもたせるために図表やグラフを用いる際には、「B書くこと」の指導事項エとも関連付けながら、目的や引用した部分と自分の考えとの関係を明確にして書くことも大切です。書かれたものについて視点を明確にして相互評価するなど、書き表し方について検討するための交流を行うことも効果的です。